

# さよなら 原発!

「このまま原発依存の社会を続けていいのか」  
……福島原発事故は、私たちに大きな衝撃と  
重大な問題をつきつけました。  
——私たちは、『原発ゼロ』をめざします。



福島原発事故から8カ月。原発被災者は、いまでも不自由な避難生活を余儀なくされ、放射能汚染による被害と健康不安は各地に広がっています。

(上写真は、10月15日に宮城で開催された「放射能汚染・被害からいのちと健康を守り、原発ゼロをめざす県民集会」)

「莫大な放射性物質＝『死の灰』をかかえ、それを閉じ込める保証がない」——“原発技術は、本質的に未完成で危険なもの”といわれます。フクシマを契機に、「脱原発」は世界の大きな流れです。「なくせ原発!」の声を、いまこそ高めていきましょう。

## 女川原発は廃炉に

「原発ゼロをめざす県民集会」を開いた実行委員会と「みやぎ県民センター」は、東北電力に「女川原発はキッパリ廃炉」を求める要請。弁護士や保育士、若い母親たち6人が同本店を訪れ、「フクシマ事故で人類が原発と共存できないことがはっきりした」と訴え、「女川原発は再稼動しないでほしい」と求めました。

## 弁護士・保育士・母親・・・ 東北電力に要請

国が電力会社に「やらせ」を要請した問題で、石巻市と女川町で開いたシンポ3回で「女川原発でも動員」。東北電力の海輪社長は「『透明性、中立性をゆがめ』、『当時は常態化していた』と述べた」と、報道（河北新報10月1日付）されています。



## 東日本大震災復旧・復興支援みやぎ県民センター

ニュースNo.6  
2011年11月発行

●住所：〒980-0804 仙台市青葉区大町2丁目5-10 御膳代町ビル305号  
●電話：022-399-6907 FAX：399-6925  
●E-mail:miyagikenmincenter@gmail.com

# 放射能の危険から…

# 子どもたちを守るために

**放射能汚染**

## 徹底した調査と迅速な除染を

福島原発事故で、大気に放出されたセシウム137（量が半分になるのに30年かかる）は、広島型原爆の168倍—大量の放射性物質が広範囲に放出され、国民の放射能への不安が広がっています。

とりわけ、子どもたちの健康をまもることは、日本社会の大問題であり、急務です。

「みやぎ県民センター」は、住民のみなさんとともに、緊急除染と大規模で長期的な除染を、国や県が全面的に責任をもって推進することを要求します。



## "原発再稼働に待った"

いま日本にある原発は54基。稼働しているのは3分の1に過ぎません。世論の力で、中部電力・浜岡原発が停止に追い込まれました。

国と電力会社の『やらせ』問題が、四国電力、中部電力、北海道電力、そして東北電力でも発覚。国民をあざむき原発を推進する政府と電力会社に批判の声がひろがり、各地で原発再稼働に“待った”をかけています。

宮城でも、女川原発の再稼働は、絶対に許しません。

## 自然エネルギーへきりかえを

### 発電能力は40倍

原発をなくして大丈夫？—心配ありません。再生エネルギーは、太陽光、中小水力、地熱、風力だけでも原発の40倍の発電能力があると、政府も試算しています。

原発コストは安い？といわれますが、国民の税金が惜しみなくつぎ込まれ（この5年間で原子力対策には2兆円以上）ています。

「原発に依存せず、自然エネルギーへ本格的に切り替えを」——求めていきましょう。